

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく
臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究

研究分担者 菊地栄次・聖マリアンナ医科大学腎泌尿器外科・教授

研究要旨(泌尿器科がんの臨床データベースの現状と将来)
2018年より本格稼働した日本泌尿器科学会 NCD 事業は順調に進んでいる。複数の泌尿器科がんにおける手術治療データの詳細入力フォームが構築され、登録の悉皆性・緻密性向上の施策が打ち出されている。登録データを活用した研究申請も開始された。今後の課題として、NCD データベース運営委員会の業務負担軽減への対策、前向き登録によるがん臨床研究の在り方検討、NCD がん登録事業結果の情報開示の在り方検証が挙げられる。

A. 研究目的

泌尿器科の臨床現場のイニシアティブで、患者の視点に基づいて医療の質をよりよくするために、日本泌尿器科学会は2018年より臓器がん登録の一環として、NCD 事業を開始した。現行の NCD 事業の把握と課題を検証することを本研究の目的とした。

B. 研究方法

日本泌尿器科学会 NCD 事業の現状と課題を以下の項目を中心に検証した。

1. 複数の泌尿器科がん種における手術治療データの詳細入力フォーム構築
2. NCD 登録の悉皆性・緻密性向上の施策
3. 日本泌尿器科学会における NCD 登録に関する組織体制の構築状況
4. 良質な NCD 登録データの利活用に向けた取り組み
5. 臓器がん登録の在り方検証
6. 現状の臓器がん登録の重要な課題点

（倫理面への配慮）

個人が特定されない登録データに基づく研究である。

C. 研究結果

研究方法で列挙した項目毎につき結果を示す。

1. まず、腎がんに対する根治的腎摘除術・腎部分切除術などの術式および前立腺がんに対する前立腺全摘除術の詳細入力フォームが作成され、2018年4月に登録が開始された。次いで膀胱がんに対する根治的膀胱全摘除術の詳細入力フォームが作成され、2019年4月に登録が開始された。そして精巣腫瘍に対する高位精巣摘除術の詳細入力フォームが作成され、

2022年1月に登録が開始された。

2. 悉皆性の向上に向けて、アップロード機能の導入、NCD-persons を用いた専門医申請の簡略化、自施設症例のダウンロード機能の開発などの施策が進められた。登録の緻密性向上に対しては、定期的な audit の施行が計画されている。
3. 日本泌尿器科学会では NCD データベース運営委員会が当初より発足し、NCD に係わる様々な事業の立案、実施を行っている。
4. 2021年7月より日本泌尿器科学会主導で、泌尿器科における NCD データを利用した新規研究課題の公募が開始された。
5. 日本泌尿器科学会では、NCD 開始当初より詳細入力フォームの構築がなされ、臓器がん登録が再開されていた。
6. 重要な課題として、全国がん登録と NCD 泌尿器科がん登録との突合の可能性の模索、薬物・放射線治療なども含めた包括的な入力プラットフォームの作成、登録フォローアップデータの充実、前向き登録の開始などが挙げられる。

D. 考察

以下項目毎に現状と課題を考察する。

1. 腎細胞がん、前立腺がん、膀胱がん、精巣腫瘍など複数の泌尿器科がん種における手術治療データの詳細入力フォームの構築が日本泌尿器科学会主導で着実になされていた。今後は腎盂・尿管がんや希少がん（尿膜管がん、尿道がん、陰茎がんなど）の詳細入力フォームの構築が望まれる。
2. 日本泌尿器科学会では NCD 登録の悉皆性向上を目的に、様々な施策が試みられ、

2021年7月1日の時点で学会認定の教育施設におけるNCDのID取得率は95%と高い値を示した。緻密性向上を目的に定期的なauditの開始が計画されており、現在audit実施体制の整備が進められている。

3. NCDデータベース運営委員会はNCD登録に関する質問への迅速な回答提示、詳細入力フォーム作成業務、総会・支部総会におけるNCD運用状況の定期的な説明会開催、NCD登録データを用いた研究促進の支援などNCDに係わる様々な業務を一括して行っている。一貫性のあるNCD活動促進事業が展開されているものと考えられた。
4. NCD登録データの利活用に向けた取り組みとして、前述のNCDデータベース運営委員に加え、日本泌尿器科学会内の学術委員、専門領域委員そしてNCD本部の運営委員が加わり、NCDデータベースを用いた研究遂行の援助体制が整備されていた。今後、NCDデータベースを用いた良質な研究成果の創出が期待される。
5. 臓器がん登録の在り方として、包括的、連続的、緻密的、効率的な登録を目指すべきと考えられた。今後、前向き登録も検討する必要があると思われる。
6. NCDデータベース運営委員会の業務負担軽減への対策、前向き登録によるがん臨床研究の在り方検討、NCDがん登録事業結果の情報開示（学会員向け、および市民向け）の在り方検証が、現状の臓器がん登録の重要かつ喫緊の課題点であると考えられた。

E. 結論

日本泌尿器科学会ではNCDデータベース運営委員会を中心に、主要な泌尿器科臓器がんのNCD詳細入力フォームが完備され、登録がスムーズに開始されていた。NCDデータベース運営委員会はNCD登録に関する様々な業務を担っているが、その業務は増加の一途をたどっている。今後は若手人材を積極的に登用し、より円滑なNCD運用を進める必要があると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
特になし

2. 学会発表

1. 菊地栄次、賀本敏行、泌尿器科におけ

るNCDの意義と可能性（「NCD手術症例登録」に関する説明会）。第86回日本泌尿器科学会東部総会：2021.9.3-4: web配信

2. 賀本敏行、菊地栄次、泌尿器科におけるNCDの意義と可能性（「NCD手術症例登録」に関する説明会）。第71回日本泌尿器科学会中部総会：2021.10.7-9: 名古屋
3. 菊地栄次、泌尿器科におけるNCDの意義と可能性（「NCD手術症例登録」に関する説明会）。第73回西日本泌尿器科学会総会：2021.11.4-6: 宮崎

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし